

さつま町ものづくり企業見学会が南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

人材流出防ぐために

ものづくり 現場公開



金属部品を加工する機械の説明を受ける生徒
＝さつま町時吉のサトウ精工

さつま

さつま町の製造業15社でつくる町ものづくり企業振興会は6月30日、薩摩中央高校3年生を対象に企業見学会を開いた。地元就職率を高める目的で3回目。生徒18人が2班に

分かれ2社ずつ訪問し、地域の企業の魅力に触れた。時吉のサトウ精工は10人が訪問。24時間体制で1日約50万個のスパークプラグの部品を製造している工場を見学した。農業工学科の西園大輝さんは「ほ

とんどの工程が自動化されていて驚いた。進路選択の参考にした」と話した。同校は町内唯一の高校で、2020年度に企業に就職した生徒38人のうち町内を選んだのは10人だった。宮之脇勝常務(66)は「地域

活性化につながるためにも情報発信に努め、知名度を上げていきた

い」と話した。見学会では同社のほか秦野精密、日特スパ

ークテックWKSが生徒を受け入れた。

(右田雄二)